

2015年度-2019年度

# 元気な町の元気な図書館マニフェスト



三重県明和町立図書館

リブネット・イセツト共同事業体

## 「明和町立図書館—元気な町の元気な図書館マニフェスト—」の策定にあたって

「ありがとう、ことば一つで笑顔が二つ」

本を手渡ししながら、私たちのちょっとした笑顔が、来館者の「図書館に来てよかった、また来たい」という思いにつながっていく・・・小さな図書館ですが、私たちの「元気な町の、元気な図書館」はそんな風景がいっぱいある図書館です。



「1冊の本は、人々や地域を成長させる力を持っている」、そして「図書館はその本の持つ力を最大限に発揮することができる場となる」という確信が私たちにあります。



私たちはこの確信を柱として、次の3つのことを大切にしようと考えました。

- ・目標・・・こんな図書館にしようというビジョンを持つこと。
- ・経営・・・PDCAによるマネジメントを行うこと。
- ・約束・・・地域図書館として緊張感とモチベーションをもって役割を果たすこと。

この3つのことを具現化するものがマニフェストでした。



2008年に「元気な町の元気な図書館マニフェスト2008」を作成して以来、本の持つ力を展開させる場として「学校」・「人」・「地域」の3つの場を設定し、目標達成にむけて取り組んで来ました。今年度よりさらに5年間の新たに指定管理を受けるにあたり、これまでの積み重ねてきた成果をもとに、「マニフェスト2015－2019」を策定しました。



1冊の本は地域、人々が成長するための大きな力となるという確信を持ち、「最良の仕事」をすることを絶えず考えながら、「最良の社会の実現」に寄与していきたいと思えます。

平成27年6月

明和町立図書館

指定管理者：リブネット・イセット共同事業体

連絡先 株式会社リブネット

本社 三重県伊勢市楠部町乙135番地

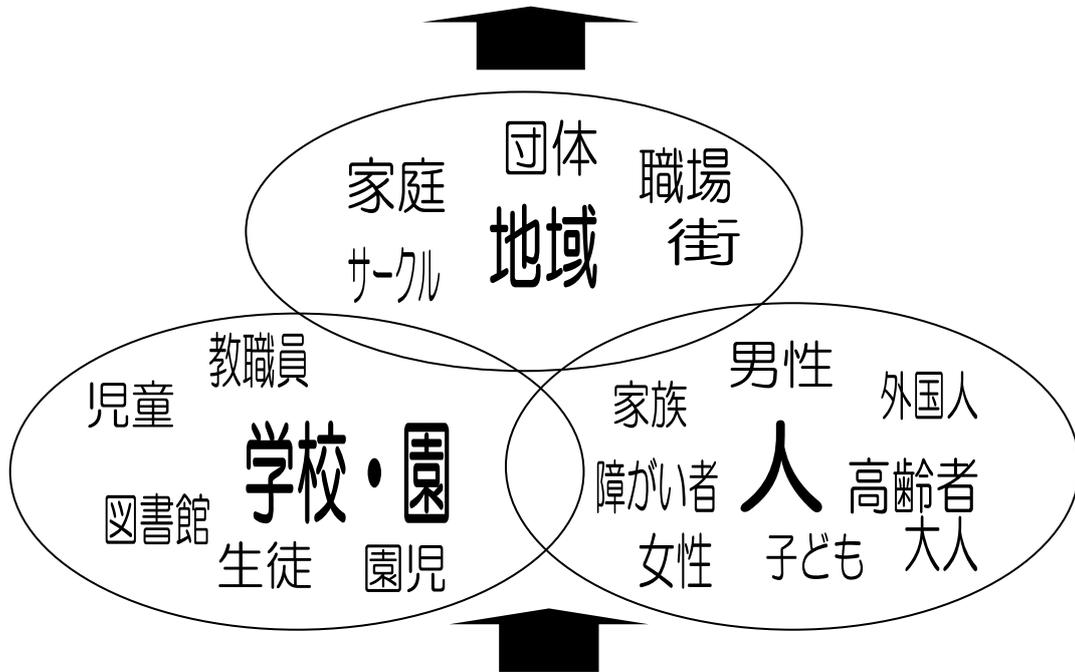
TEL：0596-25-7903 FAX：0596-27-6557

E-mail：[libnet@libnet.co.jp](mailto:libnet@libnet.co.jp)

# 明和町図書館がめざすもの

## 最良の社会を実現しよう

- 自由で、楽しく、充実感を持って暮らせる社会■
- ひとりひとりが自律し、責任を果たす社会■
- ひとりひとりの願いが、地域社会の中で大切にされる社会■



## 最良の仕事をしよう

- ★図書資料を充実します
- ★多彩な催しを開催します
- ★情報の収集と提供を行います
- ★こどもたちの読書活動を支援します
- ★地域の人々との連携を深めます
- ★図書館を利用しやすい環境に整えます
- ★図書館職員の研修を進めます

図書館を社会が成長する力にしよう

本と人との出会いがある図書館

## 図書館を、学校のちからに

本との出会いは、子どもたちの知識、想像力を豊かにし、生きる力を培います。一冊の本が、子どもの心を動かし、未来を大きく変えることもあります。インターネットによる情報収集が拡大し、子どもたちの読書離れがクローズアップされる中、小中学校や幼稚園、保育所における読書教育は大変重要な役割をもっています。

そこで、明和町立図書館は、子どもたちの日常生活での読書活動や学校・幼稚園・保育所における読書教育の充実を図るための「ちから」となるよう、サポートをおこないます。

### 実施内容

第1に、団体貸出<sup>1</sup>や、学校・幼稚園・保育所の図書資料の充実を図るためのサポートをおこないます。

第2に、学校・幼稚園・保育所の読書活動推進に役立つ情報を提供します。

第3に、幼児・児童・生徒が図書館への興味を深め、本を読むことの大切さや楽しさを知ることにつながる行事を実施するとともに、配架や壁面装飾など環境整備に努めます。

具体的な施策として、教育関係図書資料の充実を一層図ると共に、利用者にとって利用しやすい配架の工夫をします。

また授業など指導の参考になる「教育関係図書資料リストの作成」や「貸出資料の選書」等を通して資料面でのサポートをおこないます。さらに、図書館サービスを実際に体験し、興味を深めることのできる高校生を対象とした「インターンシップ<sup>2</sup>の受け入れ」、中学生の「職場体験の受け入れ」、「小学生夏季仕事体験の受け入れ」等をおこないます。

### 実施目標

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| ① 教育関係図書資料の充実と配架の工夫  |                |
| ② 教育関係図書資料リストの提供     | テーマ／年（順次改訂）    |
| ③ 子ども向けおすすめ本の紹介パンフ発行 | 2回／年           |
| ④ 貸し出しの選書支援          | 随時             |
| ⑤ 廃棄となった図書館資料の提供     | 幼・小・中学校へ／年1回   |
| ⑥ インターンシップの受け入れ      | 希望者調整の上随時受け入れ  |
| ⑦ 中学生職場体験の受け入れ       | 中学校と調整の上、受け入れ  |
| ⑧ 小学生夏休み仕事体験の受け入れ    | 希望者受け入れ（10人程度） |
| ⑨ 小学生図書館見学の受け入れ      | 希望校随時受け入れ      |

<sup>1</sup> サービス地域内の学校や幼稚園などの施設や団体を対象とした図書館資料の貸出サービス。

<sup>2</sup> インターンシップとは、学生が一定期間企業等の中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行える制度。（<http://recruit-ranking.com/intership>）

## 図書館を、人のちからに

利用者と利用者が必要とする情報とをつなぐことによって図書館は人の生きる力となります。そのために私たちは、職員一人一人のレファレンスサービス<sup>3</sup>や選書の能力向上と図書館資料の充実を図ります。利用者の生活や仕事、学習に役立つ情報に加え、さらには、これからの図書館の姿や読書スタイル、本そのものの変貌についての情報を提供します。また利用者の必要に応じた情報の収集とその活用についてわかりやすく案内します。さらに情報をより深めるために、利用者の交流・コミュニケーションを図ります。

### 実施内容

第1に、図書館スタッフ研修のブラッシュアップを図り、レファレンスや選書能力の向上に努めます。

第2に、利用者の生活や仕事、学習に役に立つ情報提供をおこないます。

第3に、利用者同士のコミュニケーションを図るため、情報交換をできる場や機会を設けます。

具体的な施策として、レファレンス能力の向上のため「職員へのレファレンス研修の実施」「パスファインダー<sup>4</sup>の作成」等をおこないます。選書については、地域の特性や人々の声を大切にするために、職員による選書を行います。

また利用者が本を手にとって利用しやすいように、季節や年中行事などのテーマコーナーを作ります。

さらに、利用者同士、利用者とスタッフ間等のより豊かなコミュニケーションを図るため、各種イベントや企画を行い、同じ興味を持つ方、同じ課題を抱えた方が集まる場を作ります。なお、これらのイベントや企画は「図書館を地域のちからに」と重なります。

### 実施目標

①図書館スタッフ研修のブラッシュアップ	3回／期間内
②パスファインダーの作成	2～3テーマ／年
③職員による選書	年間
④「広報めいわ」による情報提供	12回／年
⑤「ふるさと会館だより」（全地域回覧）の発行	12回／年
⑥ テーマコーナーの設置	
・一般向けコーナー	3分野10～20テーマ／年
・子ども向けコーナー	3分野10～20テーマ／年
・その他 短期臨時コーナー	随時

<sup>3</sup> 利用者が研究や調査にあたって図書館を効率よく利用していただけるよう、質問や相談を受付け、必要な情報を探し出す方法や手段をアドバイスするサービスのこと。

(<http://www.l-learning.jp/xoops/modules/tinyd8/index.php?id=4>)

<sup>4</sup> パスファインダーとは、ある特定のトピック（主題・論題）に関して資料・情報を収集する際に、関連する資料の探し方を提供するツールのことです。リーフレット形式の物やWebのものなどがあります。

(<http://www.lib.mie-u.ac.jp/pathfinder/index.html>)

調べたい情報にたどりつくための道筋を示すツールです。



## 図書館を、地域のちからに

図書館は、多様な情報を収集・提供することを仕事としています。このことは図書館の持つ普遍的な役割ですが、私たちは、その仕事を通して地域社会とのつながりを深め、地域の成長、活性化に寄与することも大切な仕事にしたいと考えています。それは私たちの図書館は地域の一員であるという自覚があるからです。

そこで私たちは、「人々を招く」「地域に向かう」行動する図書館として、よりよい図書資料の充実を図ることを第一義に、様々なイベントや特別展の開催、ワークショップの開催など、地域の人々や団体、施設と連携しながら町民のみなさまが気軽に利用できる場と機会を提供します。

### 実施内容

第1に、地域の特性を反映した蔵書<sup>5</sup>の構築をおこないます。

第2に、町民のみなさまが楽しみ、生活に彩りを加える企画・イベントを行います。町民のみなさまを講師とした行事や地域の団体との共催行事をおこないます。

第3に、図書館運営に支援・協力を頂ける人材・団体の発掘をおこないます。



具体的な施策として、町民参加型イベント（「図書館三行詩の募集」「町民講師を招いたワークショップ」等）や明和市民サポートセンター等関連団体との共催事業となる行事を行います。そのために、地域の人々や団体との交流に努めます。

蔵書の構築として、「斎宮・王朝文化関連資料」「明和町考古・歴史関係資料」「明和町伝統産業関係資料」「明和町在住者の著作物」の収集等、地域の特性を反映した蔵書を充実させます。

また、明和町文化祭や、斎王祭りなど町内行事に参加し、地域の一員として地域の活性化に役立ちたいと考えています。

### 実施目標

①ワークショップの開催	10回/年
②イベントの開催	3回/年
③お話し会の開催	30回/年
④郷土コーナーの充実	
⑤特別展の開催	3回/年
⑥関連団体、人材の発掘	随時
⑦めいわ市民サポートセンター等との連携	
⑧行事の共同開催や図書館ボランティアの受け入れ	随時
⑨地域巡回文庫の実施	1回/年（6地区巡回）
⑩明和町文化祭への参加	としょかん市の開催
⑪斎王祭りへの参加	大型紙芝居の開催

以上の活動を通して、町民のみなさまが人生における特別な一冊と出会うための場と機会を提供いたします。

<sup>5</sup> 蔵書とは、図書館が所蔵する資料のこと。図書だけでなく、雑誌など定期刊行物、DVDなどの映像資料、CDなどの音声資料なども含みます。

本マニフェストは5年間という期間設定をおこなっています。その期間内にマニフェストが着実に実行されているかどうかを定期的に検証する必要があると考えます。

そこで、図書館サービス全体の向上の成果を図る指標として、以下の目標を定めます。検証は、年1回実施し、その内容を翌年の実施計画に反映します。

---

 貸出冊数 110,000 冊／年を達成します。

2007年度から2009年度までの貸出冊数の平均が10,0321冊、2010年度から2014年度の貸出冊数の平均は114,152冊でした。その実績をふまえ、引き続き110,000冊／年の達成目標を設定します。

 新規登録者数 300 人／年を維持します。

2007年度以来、これまで図書館利用の少なかった層への利用促進をおこない、成果をあげることができました。

イベントなどを定期的に実施して利用者人数を増やす中で、昨年度に引き続き300人を維持していくことを目標として設定します。

 利用者の声・サービスへの評価の収集に努めます。

マネジメントサイクル（PDCA サイクル<sup>6</sup>）の一環として、図書館サービスの評価を行います。そのために、イベントや行事への参加者にアンケートの実施や意見の収集をおこない、今後のPDCA サイクルに基づく運営に反映します。

---

図書館サービスは数値のみで成果を測ることはできませんが、サービスの評価を図る基準のひとつとして、有効であると考えています。また、量だけを評価基準とするのではなく、質の評価もおこなうために、利用者への満足度調査を実施いたします。

そして、その結果を公表することでマニフェストの達成状況を広く町民のみなさまにお知らせいたします。

---

<sup>6</sup> PDCA サイクルとは、プロジェクトの実行に際し、「計画をたて（Plan）、実行し（Do）、その評価（Check）にもとづいて改善（Action）を行う、という工程を継続的に繰り返す」仕組み（考え方）のこと。  
(<http://www.hitachi.co.jp/Div/jkk/glossary/0125.html>)